

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201988		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウエルスタイル屯田 1階		
所在地	札幌市北区屯田4条4丁目12-35		
自己評価作成日	2025/2/13	評価結果市町村受理日	2025/3/21

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190201988-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・さまざまな福祉用具の導入で利用者也職員も体への負担が軽減できている
- ・花火や鏡餅づくりなど季節を感じられる行事が充実している
- ・多くの利用者は部屋にこもらず共用部で活動しており活気がある

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ウエルスタイル屯田」は、札幌市郊外にある2階建て2ユニットの事業所である。地下鉄麻生駅からバスで10分ほどの住宅地に立地しており、バス停から約5分と交通の便が良い。周囲にはスーパーマーケットやコンビニエンスストア、小学校、保育園、公園などがあり、生活環境に優れている。建物内は広々とし居間の壁には季節の飾りや作品が飾られており、明るく家庭的な雰囲気である。当事業所は開設して5年目に入り、感染症の予防をしながら地域の社会資源を有効に活用し、屯田郷土資料館、さとらんどミルク工房などの外出行事を計画的に行っている。近くの小学校や幼稚園に交流機会を働きかけたり、当事業所のお祭りを近隣住民に案内するなど関係づくりを積極的に進めている。管理者は職員と一体になって前回の外部評価の課題に向けて熱心に取り組み、更に記録類の整備を進めている。内外の研修やオンライン研修で職員が学びを深めることができるよう環境を整備している。職員は各委員会のメンバーとなり、また個別にメッセージを添えた毎月の「屯田通信」を交代で作るなど、業務を分担して運営に参加している。レク活動として毎月の食事、おやつ作りを利用者と一緒に行い、食事の楽しみが得られるように工夫している。職員は明るく丁寧な対応で利用者に寄り添うケアを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と共にある事業所を目指した事業所理念を職員で考えました。目につくところに掲示し、日々のケアで活かせるよう努力しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念と各ユニットの理念をそれぞれに掲示し、近隣住民との関係づくりを意識してケアを行っている。また介護計画を見直す際に理念にそった計画になっているかを確認し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や散歩で地域のお店や公園を訪れ、地域とのふれあいを大切にしています。	散歩や買い物、また外出行事の際に住民と触れ合っている。町内会や近くの小学校、保育園などに交流の機会を働きかけたが、場所の問題や感染症の影響もあり難しい状況にある。今後も特に保育園との話し合いを持ちたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ参加いただいた方へ、車椅子の使用方法や認知症の知識を共有している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内会議で職員からサービス状況を聞き取り、運営推進会議にてその内容をしっかり報告している。利用者家族から頂いた意見も全職員へ共有しサービスへ活かしている。	会議では調理レクや外出レク、また各委員会、研修会などの事業所報告が中心になり、意見交換の記録が少ないように見受けられる。大きな行事に合わせた会議は家族の参加率が高い。事情もあり地域代表は数回の参加で欠席が多くなっている。	地区連合会長とも相談し、地域代表の参加が毎回得られるよう期待したい。会議案内にテーマを記載して送り、参加が難しい家族には具体的な意見収集を工夫するとともに、議事録送付時に簡単な資料の添付も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の保健福祉課担当者へ、サービスの報告と相談をするために定期的に連絡を取っている。	市役所のウェブ報告システムを使用し、画面入力が必要な報告を行っている。区役所に出向いて介護認定更新や、おむつサービス申請時に不明なことを確認している。生活保護担当者の訪問時に対応し、必要に応じて連絡している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会も設け全体会議にて全職員で話し合いができています。今後拘束へ繋がりそうなケースを出し合い代替方法を話し合っている。	定期的に委員会を行い、グレーゾーン的な事例にそって課題をあげ、全職員も内容を把握している。年2回の研修では、資料を用いて不適切なケアや「禁止の対象となる具体的な行為」を学び、拘束をしないケアを行っている。現在、拘束の有無や事例の対応について記録を整備中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け、一年に複数回の講習を行っている。職員同士で互いのケアをチェックできるよう適度な緊張感をもって仕事できている。		

グループホームウエルスタイル 屯田

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行いある程度の理解はできていると思われるが、実際には利用者のご家族に頼る部分が多く活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等を一緒に読み上げ、本人・家族の不安が無いよう納得できるまで説明が出来ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人へは普段のケアにて、家族には来所時にて、意見を聞き取っている。直接言いにくいことは会社や行政の相談窓口へ言えるよう案内ができています。	家族が意見を言いやすいように対応し、話し合った内容を個人シートに記録しており、職員間の情報記録では気づきも含めて共有している。職員が交代で毎月の「屯田通信」を作り、個別に手書きのメッセージを添えて送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回、管理者が全職員と面談を行い意見を出せる機会を設けている。	全体会議では職員からの議題や各委員会からの報告について検討し、提案は試した後に評価して決めている。管理者は個人面談で勤務表や研修の希望も聞き、職員が働きやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や普段の様子を観察し、年度末に評価をしている。給与への反映もあるため職員は向上心を持ち仕事ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者も受け入れており、基礎研修を受けられるよう費用の負担やシフトの調整を手伝っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Zoomの社内研修で他事業所の職員と話す機会がある。互いのケアを真似したり意見交換のいい場になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い不安や困り事を聞きとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の前では言いづらいことなど場所を変えて再度聞き取りも行っている。施設への要望を出しやすいよう普段からコミュニケーションをとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望をプランに落とし込んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは本人にお任せし、集団生活内での役割を実感できるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とはこまめに連絡し要望を聞き取るよう心がけています。また受診や行事に参加いただき実際に本人の状態を見ていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人へ電話の取り次ぎを行ったり、年賀状や暑中見舞いを出すお手伝いをしています。	近所に住んでいた方や昔の職場関係の友人が来訪している。知人、友人からの電話や手紙には必要な支援を行っている。家族と外食や買い物、美容室などに出かけている。趣味の習字などが活かせるように装飾づくりに取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や残存能力を把握し席の配置を行っています。能力差のある利用者同士もコミュニケーションが取れるよう職員が声掛けや仲介を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は入院や他施設への転居の場合が多い為本人と関わる事があまり無い。近隣に住まわれているご家族とはよく顔を合わせており、挨拶や近況報告を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日単位での希望や意向を聞き取り、おやつやレクの内容を決めている。	会話が可能な利用者は少なく、普段の様子を見て思いを把握している。アセスメントシートに趣味・嗜好などの項目があり、6か月ごとに更新して介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取った情報だけではなく、本人や家族との会話で聞き取った情報を職員で共有しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態を観察し、事業所全体での送りを行っている。自分のユニット以外の情報もある程度把握できている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やカンファレンスで聞き取った情報を計画に反映している。	計画作成担当者は職員からの情報を基にモニタリングを行い、会議で評価後に介護計画を作成している。更新時に利用者、家族の意向を聞いているが、具体的な意向を引き出して介護計画につなげたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日遅番が目標の達成記録をつけており、いつでも観覧できるようになっている。計画の見直し時にも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の業務中も職員同士でケアについて話す時間をとり臨機応変にサービスを提供出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、病院、ボランティアなど様々な人たちの支援により利用者は健康で活力ある生活ができています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の病院を選択していただいている。かかりつけ医がリアルタイムで本人の状態が把握できるようこまめな連絡を心がけている。	3か所による医療機関の訪問診療があり、利用者の状態や意向にそって協力医を決めている。その他の専門的な他科受診は家族が対応し、車いす利用や緊急時には職員が同行している。往診、通院の経過を個別のファイル内に綴っている。	

グループホームウエルスタイル屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変から小さな気づきまで看護師への報告が来ている。職員は出勤時に医療指示を必ず確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が日頃からSWとの情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りケアは行っていないが、ご本人、ご家族様のご要望を出来る限り実施できるようかかりつけ医や看護師と話し合いをし取り組んでいる。	利用開始時に重度化に関する指針を説明し、医療的な行為は難しく、また看取りは体制を整える段階であることを伝え同意を得ている。状態の変化から関係者で方針を話し合い可能な限り対応し、意向にそって病院や医療設備のある施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを定めており、定期的に急変対応について確認する機会がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の役割分担が決まっており、さまざまな災害を想定した訓練も定期的実施している。	防災設備会社の立ち会で日中と夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、近隣住民の参加が得られたこともある。夜間に地震からの火災発生を想定し、職員間でケアについて話し合ったが記録には残していない。	緊急時の避難場所として協力を得ている高齢者住宅に訓練への参加を働きかけ、協力内容の話し合いを期待したい。また各災害時のケア別対応を利用者ごとに話し合い、記録にして定期的に見直すことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格を尊重し、行動を押し付けるような声掛けをしないよう気をつけている。	入社時の接遇研修や全体会議、勉強会などで不適切ケアや言葉がけを学んでいる。申し送りはインシヤルを使用し、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の尊重以外にも、本人が希望を話しやすいような雰囲気づくりに務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休みたいときに休み、活動への参加は自分で決定できるよう配慮出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で使っていた化粧品や服を持ち込んでいただき好きな物を身につけてもらっている。		

グループホームウエルスタイル 屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食事やおやつを作ったりして食べる事を楽しんでいただいている。食器拭きなど、できる範囲で家事に参加いただいている。	月1回手作り昼食会を行い、利用者と一緒にカレーや餃子などを作っている。出前で寿司を取ったり、外食で和食レストランなどに出かけている。おやつ作りも利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎日記録し、栄養状態の把握ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声掛けしている。必要に応じて歯科往診を依頼し良い口腔状態が保てている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを観察し、それぞれに合った間隔でトイレ誘導をしている。	全員の排泄を記録して声かけや誘導を行い、2人介助でも対応しながら可能な限り日中はトイレでの排泄を支援している。声かけの間隔を短くすることで、排泄用品の使用が少なくなった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や乳製品を取り入れるなど工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まってるが、本人の希望をきき入浴日をずらしたりもしています。	日曜日以外の午前中に、一人週2回の入浴を支援している。機械浴も利用し、全員が湯船に浸かっている。入浴順や同性介助の意向に配慮し、拒む場合は日曜日に入浴支援することもある。好みの湯加減で職員と会話を楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態を観察し必要に応じて休息を声がけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬情報が観覧できるようになっている。内容の変更があれば必ず連絡がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶や習字など、利用者の得意な事や好きな事をレクに取り入れ楽しんでいただいている。		

グループホームウエルスタイル屯田

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出行事を企画している。家族の協力にて遠方への旅行も楽しんでいただいている。	普段は事業所周辺を散歩したり、車で近くの公園や遊歩道に出かけている。天気の良い日は、玄関先で毎日コーヒーなどを楽しんでいる。外出行事でサーモンファクトリーや屯田郷土資料館、さとらんどミルク工房など、普段行けない場所に積極的に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事業所の金庫で管理しているが、外出行事などで本人がお金う機会を提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎや、年賀状を書くなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室には分かりやすい表示がある。季節を感じられるよう毎月利用者と一緒に壁飾りを制作し飾ってある。	台所や食堂、居間を中心に居室が配置された造りで、大きな窓に面した共用空間に明るい光が差し込んでいる。居間の壁には、利用者も一緒に制作したひな祭りや干支の装飾などが綺麗に飾られている。ソファも多く備えられており、利用者が好きな場所でゆっくり寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ席、を用意し好きな席で自由に過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の身体状況を考慮しつつ、本人の好きな物を持ち込んでいただき安心できる空間となるよう話し合いながら作っている。	ベッドとクローゼットが備え付けられている居室に、使い慣れた机や椅子、仏壇、好きな雑誌などを持ち込んでいる。壁に自分の作品や職員からのメッセージカードを飾ったり、好きな小物類などを身近に置いて落ちついて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の物が分かるよう名前を貼ったり、分かりにくいものには説明書きをつけるなどして、自分であることを増やせるよう努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201988		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウエルスタイル屯田 2階		
所在地	札幌市北区屯田4条4丁目12-35		
自己評価作成日	2025/2/13	評価結果市町村受理日	2025/3/21

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201988-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節ごとに行事を取り入れ季節感を感じて頂いている。

・午前、午後と共にレクレーションをしており、ほぼ全員の利用者様に参加して頂いている。

・大きな行事を企画した際はご家族様やボランティア様にも参加して頂き楽しんで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	話し合いの場を設け、管理者、職員共に地域密着型サービスの意義を念頭に理念を考え、日々意識しながら実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物レクや季節の行事時に利用させていただき地域との繋がりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大きな行事を実践する際には近隣住民にお手紙を配布するなどして事業所に対して理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、施設内での取り組みやヒヤリハット、事故を報告し意見交換、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事や不明な点など役所や介護保険課へ連絡、相談させて頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修や委員会を実施しており、月に1回の職員会議で職員同士意見交換、情報共有している。身体拘束の事例はない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修や委員会を実施しており、虐待が見過ごされることがないように徹底している		

グループホームウエルスタイル 屯田

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を受け職員一同理解を深める機会を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に管理者より説明し同意を得ている。利用者様やご家族様が不安や疑問が残らないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設サービス計画書見直し時、面会時等に意見や要望を聞き運営に反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で提案、意見が出来る機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断が年に2回実施されている。シフト調整は柔軟に対応して頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量、適任者に応じて外部研修やオンライン研修などが実施されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン研修を通して他事業所との交流、コミュニケーションや意見交換を行いサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活が送れるよう利用開始時は特にコミュニケーションを図り信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前より面談や電話での相談にて都度話し合い不安解消や要望を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様から意見を聞き職員一同情報共有しながら対応できている。リスクを見極め福祉用具等準備する事が出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとり出来ることなどを見極め、それぞれ役割を持って頂き、職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や介護計画書見直し時、毎月の屯田通信などでご本人の様子をお伝えさせて頂き出来る限り支援に繋げられる努力を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご親族との外出、外食をされたり昔から通われていた美容室に出かけたり馴染みのある関係性に配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わり孤立をすることがないよう職員が介入し交流できるよう支援している。利用者同士の関係を把握し座席に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族様からの相談等はその都度管理者が対応している。利用者様の経過を見る為病院へ面会に行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段生活の中での会話から情報を得て職員間で共有している。ご家族様からも意見や意向を伺いケアプランを作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際や面会時、モニタリングの際に話を聞き情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を状態観察し職員間で情報共有している。利用者様それぞれの能力を把握し役割を持って過ごして頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでの意見交換や面会時にご家族様の思いや意見を取り入れケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活に関わる事、問題点や様子を記録に残す事で職員間で情報共有出来ており見直しやすくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況により病院への受診同行や買い物を行いご家族様の負担軽減を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様それぞれの能力、状態を把握しながら近隣の祭りや散歩買物へ職員と一緒に出向いている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関では月1.2回の訪問診療、24時間の医療支援体制で適切な医療を受けられるよう支援している。往診の他にも体調不良や薬の相談を行っている。		

グループホームウエルスタイル屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の様子や状態を報告、相談し情報共有することが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には必要な情報提供を行い、病院からの情報を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の指針の説明をし同意いただいている。身体状況の変化があった際は都度ご家族様、主治医、管理者が話し合いを行い支援方針の共有を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に見えるところにマニュアルが置いてあり緊急時の連絡先を職員間で把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や災害の訓練を年に2回実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や認知症状の違いを把握し人格を尊重しながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に声掛けし意思確認、判断できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の様子を観察しご本人のペースを大切にしながら支援している。難しい時には理由を説明させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類交換や服装を提案させて頂いている。ご家族様にも協力させて頂いている。		

グループホームウエルスタイル 屯田

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に応じて特別メニューを取り入れ、片づけなど利用者様一人ひとり役割を持って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の様子、摂取量など把握、観察し水分量が不足している時は声掛けし好みのものに変更、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり声掛けしそれぞれに応じて見守りや介助し対応している。希望がある利用者には訪問歯科にて定期的な口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンを把握し声掛けしている。また必要な方には自尊心を傷つけないよう配慮しながら介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操への参加促し、排便状況を確認し様子を見ながら主治医や看護師に相談し指示を頂き対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調を見ながら入浴して頂いているが、入浴出来ない時には曜日や時間を変更し対応している。週2回入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見ながら休息して頂いたり、声掛けをしなが生活リズムを整え昼夜逆転にならないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情を確認、把握し変更がある際は職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でそれぞれに楽しみを持っていただけるよう季節の行事を行っている。行事に合わせて食事やおやつを提供し楽しめるようにしている。		

グループホームウエルスタイル 屯田

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた行事を企画し、季節を感じて頂けるよう出来る限り暖かく天気の良い日に楽しく戸外に出かけられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は預かり金として管理しているが近隣のお店での買い物はご自身で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話を掛けたいと希望があった際には取次対応している。またご家族様へ手紙を出したいと言われた時にはやり取りできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう室内の装飾をしたり展示物をしている。温度や湿度に気をつけながら居心地の良い空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの様子を観察し席やソファ席の配置に配慮し状況に合わせその都度工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具やテレビ、写真などを持ってきていただき心地よい居室づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ることを強みにし声掛けや見守りを行いながら自立した生活が出来るよう支援している。		